

889. Linear, semi-ordered Space = $\forall \neq$

深宮政範(阪大)

$E \neq$ linear, semi-ordered space \neq ,
semi-order が $X > \theta$ が定数 $\neq \neq \neq \neq \neq$.

$$1^\circ. X > \theta \longrightarrow X \neq \theta$$

$$2^\circ. X > \theta, Y > \theta \longrightarrow X + Y > \theta$$

3°. 凡 $\forall X \in E = \text{数}$ $\exists X_+ > \theta$ が定義せらる

$$X_+ \geq X, \text{ 且 } \forall X' \geq \theta, X' \geq X \text{ ならば } X' \geq X_+$$

$(-X)_+ = X_-$ とすれば $X = X_+ - X_-$ と *unique* = 分解せらる。且 $\forall 3^\circ$ $\wedge E$ が *lattice* であることを示す。

$$|X| = X_+ + X_- \text{ とする。}$$

$$4^\circ. \lambda > 0, X > \theta \text{ ならば } \lambda X > \theta$$

5° $u > \theta$ が存在する (*unit!*) 凡 $\forall X \neq \theta = \text{数}$ $\exists -t u < X < t u$ なる様 $t > 0$ が存在する。カ $\forall t > 0$ $g. l. b. \wedge > 0 (X \neq \theta)$

5° の性質から空間 = "norm" が入れることが出来る。夫 $\Rightarrow 5^\circ$ = 於ける $t > 0$ $g. l. b. \exists \|X\|_u$ とすれば良い。従って E の "norm" のついた *semi-ordered space* とする、之を E_u と表す。實 \wedge

$$\text{Cor. } X \geq \theta, Y \geq \theta \text{ ならば}$$

$$\|X \cup Y\|_u = \max(\|X\|_u, \|Y\|_u)$$

が 5° から出て来る、従って E_u の *abstract (M)* と考へられる。

Cor. の証明は殆んど明らかである。 $\theta \leq X < t u, \theta \leq Y < s u$ ならば $\theta \leq X \cup Y < \max(t, s) u, \|X \cup Y\|_u \leq \max(\|X\|_u, \|Y\|_u)$, 一方 $\max(\|X\|_u, \|Y\|_u) = \|X\|_u$ とし; $t_0 \exists X \cup Y < t_0 u, t_0 < \|X \cup Y\|_u + \varepsilon$ とすれば $X \leq X \cup Y < t_0 u$ であるから $\|X\|_u < \|X \cup Y\|_u + \varepsilon$, 茲

= ε の任意であるから $\|x\|_u = \|x \cup y\|_u$.

斯く abstract M-space ハーツノ bicompact
ノ空間ノ上ノ凡ユル連続函数ノ空間ト isometric, lattice-
isomorphic であるコトガ前=角谷静夫氏=依ッテ示サレ
タ。(1) 夫ト独立= M.-S. Krein(2) ガ矢張り同一ノ事實ヲ
証明シテ居ル。論文ノ定理ト必要ノ lemmas 等ヲ述ベテ
居ルガケテ全部ハ分ラナイガ、大体証明ヲ考ヘルコトガ出来
タ様=思フノデ、要點ガケ述ベテ見タイ。

吾々ハ今ハーツノ假定ヲ設ケル。(之ハ實際証明ガテキル
ノである)。

6°. E_u ハ $\|x\|_u = 1$ である complete である。

E_u ハ Banach space であるカラ \bar{E}_u ヲ考ヘル。
 $f \in \bar{E}_u$ ガ $x \geq \theta$ ならば $f(x) \geq 0$ である"non-
negative" ト云ヒ、 $f \geq \theta$ ト記スル \bar{E}_u ハ又 linear,
semi-ordered space である。 $f > \theta$ ならば

$$\|f\|_u = \sup_{-u < x < u} |f(x)| = f(u) \text{ であるコトハ明カである。}$$

$f > 0$, $f(u) = 1$ である凡ユル $f \in \bar{E}_u$ ノ集合ヲ H_u 表
ハス。

証明ノ方針 角谷氏ノ方法ニ、M.-S. Krein ノ方
針ニ共ニ E_u 上ノ連続函数ニヨッテ表現シヨツトス

(1) 角谷静夫氏, 学士院記事, XVI - NO. 3. pp. 63-67.

(2) M.-S. Krein, C. R. U. R. S. S., XXVII, NO. 5

μ である。即ち $X \in E_u =$ 対して $f(x) = \sum(f)$ ($\sum =$
 $g(f; X)$) となる \bar{E}_u 上の continuous function を
 考へて之を $X =$ 對應させること = 依らうとするのである。然
 し \bar{E}_u 全体を考へては点が多すぎるので — 之は lattice-
 isomorphic = 同型 —。よって $X = f$ の一部
 分 S を考へ、又 $S \subset \bar{E}_u =$ functional として、
 weak topology をつける。Krein の場合最も大
 事な部分の次の定理である。

定理 (i) H_u は closed, bounded, regularly
 convex である。

(ii) H_u の extreme points の集合 S_u は leer
 である。

(iii) $f \in S_u$ となる X の必要十分条件は $|f(x)| = f(|x|)$,
 $X \in E_u$ となることである。

注意 Banach-space E の conjugate space
 \bar{E}_u の部分集合 K が regularly convex であること云
 々の、任意の $g \in K =$ 対して $\sup_{f \in K} f(x_0) < g(x_0)$ とな
 る $x_0 \in E$ が存在することを云う。regularly convex
 な集合は又 convex である。

f が convex-set K の extreme point であ
 ること云々の、 $K =$ 属する segment の中点 = 同型
 であることを云う。即ち $g, h \in K =$ 対して $f = \frac{1}{2}(g+h)$ 。

証明 (i) H_u は $f(u) = \|f\|_u = 1$ を満足する故
 有界である。又 H_u は closed であることは明らかである。

$\varepsilon \forall f_0 \in \bar{E}_u =$ 對 \forall 任意, $\varepsilon > 0 =$ 對 $\forall \tau \|f_0 - f\|_u < \frac{\varepsilon}{2}$,
 $f \in H_u$ かつ f が常 = 存在スルトスレバ $\theta < x < u$ かつ
 \forall

$f_0(x) - f(x) > -\varepsilon$, 従って $f_0(x) > f(x) - \varepsilon > -\varepsilon$
 が成立つ. \exists かつ $f_0(x) \geq \theta$, 且つ $f_0(u) = 1$, 従って
 $f_0 \in H_u$, H_u は closed.

H_u が regularly convex \Rightarrow アルコトモ直ぐ命
 じ. $g \in H_u$ かつ $g > \theta$ 又 $g(u) \neq 1$ かつアル. 例
 へ $g(u) < 1$ かつアルバ x_0 (定義) トシテ $-u$ かつ
 べ良イ.

従って (i) の証明は了.

(iii) a) $|f(x)| = f(|x|)$, $x \in E_u$ が成立スレバ
 $f = \frac{1}{2}(g+h)$, $g, h \in H_u$ ($g > \theta$, $h > \theta$, $g(u) = h(u) = 1$)
 かつトキハ $f = g = h$.

証明 $f(x) = g(x)$, $x > \theta$ が証明スレバ充分
 かつアル. 今 $f(x) = \alpha$, $x \geq \theta$ トスル. $f(u) = 1$ かつアル
 かつ

$$f(x - \alpha u) = 0, \text{ 従って } f(|x - \alpha u|) = 0.$$

$$\text{従って } g(|x - \alpha u|) = 0.$$

$$(x - \alpha u)_+ = (x - \alpha u) \vee 0 = x \vee \alpha u - \alpha u,$$

$$(x - \alpha u)_- = -(x - \alpha u) \vee 0 = (\alpha u - x) \vee 0 = \alpha u \vee x - x$$

$$\text{従って } g((x - \alpha u)_+) = g(|x - \alpha u|) = 0 \text{ かつ}$$

$$g(x \vee \alpha u) = g(\alpha u) = g(x), \quad g(x) = \alpha$$

かつアル. 従って $f(x) = g(x)$, $x > \theta$ 従って $\forall \tau, X =$

對シテ $f(x) = g(x)$ が成立ツ。

注意 $|f(x)| = f(|x|)$, $x \in E$ の条件ト equivalent ナル。

$$f(x \cup y) = f(x) \cup f(y), \quad f(x \cap y) = f(x) \cap f(y)$$

b) ドシテ $g, h \in H_u =$ 對シテ $\exists f \neq \frac{1}{2}(g+h)$ ナレバ $f(|x|) = |f(x)|$, $x \in E_u$ が成立スル。

証明ハ簡單ナル。 $|f(x)| = f(|x|)$, $x \in E_u$ が成立シテ カッタトスレバ

$$x, y > 0, \quad x \cap y = \emptyset, \quad \text{且ツ } f(x) > 0, \quad f(y) > 0$$

ナル x, y が存在スル。今任意 $z =$ 對シテ

$$z_1 = z \cap y, \quad z_2 = z - z_1 (= z - z \cap y)$$

トオクト $z_1 \geq \emptyset, \quad z_2 \geq \emptyset, \quad z_1 \cap z_2 = \emptyset, \quad z_1 + z_2 = z$

$$\text{次} = z \geq \emptyset = \text{對シテ}$$

$$g'(z) = f(z_2), \quad g(z) = \frac{g'(z)}{g'(u)}$$

$$h'(z) = f(z_1), \quad h(z) = \frac{h'(z)}{h'(u)}$$

$$g(w) = g(w_+) - g(w_-), \quad h(w) = h(w_+) - h(w_-),$$

$$w \in E_u$$

ト定義スレバ $g, h \in H_u$ 且ツ $f = pg + (1-p)g$, $0 < p < 1$ ナル。從ツテ $g_1 = 2pg + (1-2p)h$, $h_1 = h$ トスレバ $f = \frac{1}{2}(g_1 + h_1)$, $g_1, h_1 \in H_u$ トナツテ 假定ニ矛盾スル。

以上ニ依ツテ (i), (iii) が証明セラレタ。

次 = (ii) H_u / extreme points / 集合 S_u は
leer デハナイコトヲ証明シナケレバナラナイ。之レハ
ツノ定理ヲ用フレバ容易デアル。³⁾ Krein ハ之レヲヨ
リ一般ノ定理ヲ証明シテ、ソレカラ導イタ⁴⁾ 即チ

定理 Banach 空間 E / conjugate space \bar{E}
ノ regularly convex subset K ハ必ず extreme
points ヲモツ。

コノ定理モ前述ノマツ = 有界 ノ場合ハ容易デアル。

(續ク)

3) Šmulian, Rec. math., 7-3 (1940).

4) Krein - Milman, Studia Math. 9 (1940) (未着)